

# αリポ酸点滴療法の適応

## ① がん

αリポ酸単独でも、TCAサイクルをまわすことにより、ミトコンドリアから活性酸素を発生させて抗がん作用を発揮するが、高濃度ビタミンC点滴と併用すると、ビタミンCを再生することにより、ビタミンCの抗がん効果も高めて、より強力な抗がん作用が得られる。

## ② パーキンソン病、認知症、多発性硬化症、ALS

血液脳関門を通過することができるαリポ酸は、自ら強力な抗酸化物質であるだけでなく、老化によって産生が低下して来たグルタチオンを再生してリサイクルさせることができる。そのグルタチオンは、脳細胞をフリーラジカルからの攻撃によるダメージを受けないように守る働きがある。

## ③ 自己免疫疾患 αリポ酸＋低用量ナルトレキソン療法が有効である。

慢性関節性リウマチ・SLE・皮膚筋炎・シェーグレン・多発性硬化症・クローン病・潰瘍性大腸炎

## ④ 糖尿病 αリポ酸はTCAサイクルをまわして糖代謝を促進し、血糖値の上昇を抑制する。

特に糖尿病性神経障害

## ⑤ 動脈硬化

1. αリポ酸はキレート剤として働き、血管内にこびり付いた重金属やカルシウムや銅をあたかもパイプ掃除をするように取り除いて、動脈硬化を起こした血管を若く柔らかい血管に戻す。
2. αリポ酸はビタミンE、ビタミンCなどと共にLDLコレステロールが酸化されるのを防ぐ。
3. 動脈壁に蓄積したAGEにマクロファージが付着するとフリーラジカルが発生し、血管内皮細胞のグルタチオンが消費され尽くしてしまうが、αリポ酸はそのグルタチオンをリサイクルして増やす。
4. αリポ酸は血管内皮細胞でのNFκBの活性化を阻止し、動脈硬化性血管病につながる炎症反応を阻害する。
5. αリポ酸はNFκBが細胞質から核に入るのを阻害する。

## ⑥ 高脂血症・肥満・TG・内臓脂肪・体重を減少させる。

αリポ酸はAMPKを活性化させることによって、β酸化を促進させる。  
またαリポ酸は脂肪酸合成に関与するACC(アセチルCoAカルギキシラーゼ)やFAS(脂肪酸合成酵素)の活性を阻害して、脂肪酸の合成を抑制する。  
また、AMPKはHMG・CoA還元酵素をそがいて、コレステロールの合成を抑制する。

## ⑦ 慢性疲労症候群

活性酸素による細胞損傷が原因で産生されるTGF-βは、病的な疲労である慢性疲労症候群(CFS)の原因物質と考えられているが、αリポ酸は処理しきれなくなった大量の活性酸素を抗酸化作用により処理して、脳に疲労を伝えるTGF-βの産生を抑制するとともに、エネルギー産生補助も行って疲労から回復させる。

## ⑧ 末期慢性C型肝炎・肝硬変・肝がん

1.  $\alpha$ リポ酸は末期肝疾患に効果がある。
2. 肝がんに対しては高濃度ビタミンCより $\alpha$ リポ酸の方が有効。
3. CTでの腫瘍像もAFP値も改善を示す。
4. 肝がん再発を繰り返す症例、慢性C型肝炎で肝がん発症を予防したい症例は特に適応あり。
5. 腹水を来しているような非代償性肝硬変にも有効である。

## ⑨ 心疾患

$\alpha$ リポ酸はキレート剤として働き、血管に沈着したカルシウムを除去し、冠動脈を元の若くしなやかな血管に作り替えて心筋梗塞の血管イベントの再発を予防する。

1. 狭心症・心筋梗塞
2. 糖尿病性心筋症
3. 心不全

$\alpha$ リポ酸はTCAサイクルをまわしてATP産生量を増加させるとともに抗酸化作用で、心筋細胞内の活性酸素を除去する。

## ⑩ キレーション

重金属は体内でミネラルに置き換わることによってミネラルの仕事を妨げる。またグルタチオンと結合することによってグルタチオンレベルを低下させる。重金属が過剰に体内に溜まると、活性酸素などのフリーラジカルが増えて、DNA・細胞膜を損傷する。 $\alpha$ リポ酸はS-S結合を有して生体内で可逆的に酸化・還元されることで、水銀、鉛、カドミウム、ヒ素、銅、亜鉛、マンガン、過剰のカルシウム、過剰の鉄などの重金属を体外に排出して解毒作用を発揮する。またグルタチオン合成を促進する。

